

鳥飼慎一郎教授主要業績一覧

List of Major Works by TORIKAI Shinichiro

●著書

(学位論文には○を付す)

- (1) 1987年2月 『教養英語の総合演習 ― 構文理解のために ―』(第15章「会話の機能と表現」 pp.144-150 担当) 三修社 (共著)
- (2) 1988年4月 『20日完成英検準1級2次試験対策』日本英語教育協会 (単著)
- (3) 1989年3月 『20日完成英検準1級2次試験対策』日本英語教育協会 [改訂版] (単著)
- (4) 1992年2月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES』1-3巻 三省堂 (共著)
- (5) 1992年3月 『BUSSINESS ENGLISH WRITING』東京外国語センター (単著)
- (6) 1993年2月 『三省堂ファースト英和辞典』三省堂 (共著)
- (7) 1993年3月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES Teacher's Manual』1-3巻 三省堂 (共著)
- (8) 1996年2月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES』1-3巻 三省堂 (共著)
- (9) 1996年4月 『基礎からがんばれ! FOR THE TOEIC TEST速読レッスン』三省堂 (共著)
- (10) 1996年4月 『Cultivating Writing Skills ― 基本語彙を使った発展英作文 ―』朝日出版社 (単著)
- (11) 1997年3月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES Teacher's Manual』1-3巻 三省堂 (共著)
- (12) 1997年4月 『三省堂ファースト英和辞典』三省堂 (共著)
- (13) 1999年3月 『英文リーディング大作戦』[上級] 三省堂 (共著・筆頭・監修)
- (14) 1999年4月 『英文リーディング大作戦』[初級] 三省堂 (共著・筆頭・監修)
- (15) 1999年4月 『英文リーディング大作戦』[中級] 三省堂 (共著・筆頭・監修)
- (16) 2000年4月 『Information, Please』(ビデオ速読部分全般・教授用資料・その他担当) 松柏社 (共著)
- (17) 2000年10月 『More Information, Please』(ビデオ速読部分全般・教授用資料・その他担当) 松柏社 (共著)
- (18) 2002年2月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES』1-3巻 三省堂 (共著)
- (19) 2002年3月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES Teacher's Manual』1-3巻 三省堂 (共著)
- (20) 2003年4月 『NHK高校講座英語Ⅰ』日本放送協会 (単著)
- (21) 2003年7月 『英文スピードリーディング』[初級編] アスク (共著・筆頭・監修)

- (22) 2003年7月 『英文スピードリディング』[中級編] アスク (共著・筆頭・監修)
- (23) 2003年7月 『英文スピードリディング』[上級編] アスク (共著・筆頭・監修)
- (24) 2006年2月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES』1-3巻 三省堂 (共著)
- (25) 2006年3月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES Teacher's Manual』1-3巻 三省堂 (共著)
- (26) 2007年3月 ○ *A Corpus-based Study of Legal English: Investigating the Language of the House of Lords Judgments 1677-2000, with Particular Reference to Reported Discourse*. PhD Dissertation, The University of Lancaster (単著).
- (27) 2010年1月 『イラストでイメージ: 基本語彙を使った英作文』朝日出版社 (単著)
- (28) 2012年1月 『Grammar for Communication —Weaving It All Together—』朝日出版社 (単著)
- (29) 2012年2月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES』1-3巻 三省堂 (共著)
- (30) 2012年3月 『NEW CROWN ENGLISH SERIES Teacher's Manual』1-3巻 三省堂 (共著)
- (31) 2014年1月 『Legal Minds: 15 Journeys in Law』金星堂 (共著・筆頭)
- (32) 2015年3月 『英語でコミュニケーションするならNHK高校講座がいちばん』(主に解説部分を担当) 河出書房新社 (共著・筆頭)
- (33) 2019年1月 『English through Active Learning —Read to Think and Speak—』(全体の監修および註釈・テスト部門・Words in Actionを担当) 朝日出版社 (共著・筆頭)
- (34) 2019年1月 『Putting Core English Words into Action』朝日出版社 (単著)

●主な学術論文 (定期刊行物および単行本の一部)

- (1) 1984年3月 「A Theory and Practice of Teaching How to Communicate in English」『英語英文学論集』第12号 pp.19-32 都留文科大学 (単著)
- (2) 1984年11月 「都留文科大生99名における口頭でのコミュニケーション能力の現状分析」『研究紀要』第21号 pp.41-49 都留文科大学 (単著)
- (3) 1985年3月 「A Study of Input and Output in Learning English in Japan」『英語英文学論集』第13号 pp.59-85 都留文科大学 (単著)
- (4) 1985年8月 「A Further Study of American Politicians' Arguments in TV Interviews」『学苑』第548号 pp.96-74 昭和女子大学 (単著)
- (5) 1986年3月 「続・発話能力の客観的評価方法を求めて」『英語英文学論集』第14号 pp.55-78 都留文科大学 (単著)
- (6) 1986年3月 「英会話指導の理論と実践」『紀要』第15号 pp.70-74 中部地区英語教育学会 (単著)
- (7) 1986年9月 「文中心の英作文からテキスト中心の英作文へ」『学苑』第561号 pp.87-76 昭和女子大学 (単著)
- (8) 1987年3月 「言語が伝えるもの」『学苑』第567号 pp.66-54 昭和女子大学 (単著)
- (9) 1988年3月 「コミュニケーション論からみたパブリック・アナウンスメント」『ヒューマン・コミュニケーション研究』第16号 pp.118-123 日本コミュニケーション学会 (単著)

- (10) 1989年6月 「日本人英語の分析とそれが示唆するもの」『スピーチ・コミュニケーション教育』第2号 pp.1-16 日本コミュニケーション学会(単著)
- (11) 1990年4月 「Text文法から見たPresidential Debateにおけるtopicの展開と構成——1——」『学苑』第581号 pp.115-103 昭和女子大学(単著)
- (12) 1990年6月 「Presidential Debateの構造」『ヒューマン・コミュニケーション研究』第18号 pp.171-193 日本コミュニケーション学会(単著)
- (13) 1991年6月 「テキスト文法から見たPresidential Debateにおける答えと反駁」『スピーチ・コミュニケーション教育』第4号 pp.15-41 日本コミュニケーション学会(単著)
- (14) 1992年3月 「ライティングの指導と評価」(編)『教職課程研究』第2集 pp.159-173 姫路独協大学教職課程研究室(単著)
- (15) 1993年2月 「中学校の検定英語教科書における使用語彙の比較分析[理論編]」『教職課程研究』第3集 pp.157-171 姫路独協大学教職課程研究室(単著)
- (16) 1994年1月 「中学校の検定英語教科書における使用語彙の比較分析[数量編]」『姫路独協大学外国語学部紀要』第7号 pp.198-234 姫路獨協大学(単著)
- (17) 1994年3月 「中学校の検定英語教科書における使用語彙の比較分析[機能語編]」『教職課程研究』第4集 pp.115-130 姫路独協大学教職課程研究室(単著).
- (18) 1995年2月 「中学校の検定英語教科書における使用語彙の比較分析[基本動詞編]」『教職課程研究』第5集 pp.95-112 姫路独協大学教職課程研究室(単著)
- (19) 1995年7月 「一般参加のPresidential Debateにおける質疑応答」『ヒューマン・コミュニケーション研究』第23号 pp.15-38 日本コミュニケーション学会(単著)
- (20) 1996年3月 「動詞中心の英語表現から名詞中心の英語表現へ」『教職課程研究』第6集 (pp.61-74) 姫路独協大学教職課程研究室(単著)
- (21) 1996年6月 「Presidential Debateにおける主題」『スピーチ・コミュニケーション教育』第9号 pp.9-38 日本コミュニケーション学会(単著)
- (22) 1999年6月 「プレジデンシャルディベートにおける目的格の関係代名詞の使われ方」『スピーチ・コミュニケーション教育』第12号 pp.82-95 日本コミュニケーション学会(単著)
- (23) 1999年10月 「アメリカ憲法判例読解にみるESP教育の語彙的諸問題」『ことばと人間』第1号 pp.63-85 立教大学(単著)
- (24) 1999年12月 「コミュニケーション論から見たプレジデンシャルディベートにおける関係代名詞節による後置修飾」『駿河台大学論叢』第19号 pp.95-116 駿河台大学(単著)
- (25) 2006年3月 「話法をどう理解すべきか」『ことばと人間』第8号 pp.5-34 立教大学(単著)
- (26) 2007年3月 「英語の話法の構造」『ことばと人間』第9号 pp.87-117 立教大学(単著)
- (27) 2008年3月 「Contemporary Judgments by the UK's House of Lords」『ことばと人間』第10号 pp.21-55 立教大学(単著)
- (28) 2009年3月 「Nominalizations and Passivizations in the Present Day UK Legal Discourse and in other Genres」『ことば・文化・コミュニケーション』創刊号 pp.53-73 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)

- (29) 2010年3月 「Historical Analysis of British Legal Discourse from 1677 to 2001」『ことば・文化・コミュニケーション』第2号 pp.83-101 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)
- (30) 2011年3月 “Lexico-Grammatical Analysis of American Legal Discourse over 200 Years”『ことば・文化・コミュニケーション』第3号 pp.93-110 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)
- (31) 2012年3月 「英学史から見た幕末期における異言語の衝撃と日本の対応」『ことば・文化・コミュニケーション』第4号 pp.127-156 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)
- (32) 2012年12月 「21世紀において合衆国最高裁判所が辞書から定義を引用する基準」『アメリカ法』2012-1号 pp.134-139 日米法学会(単著)
- (33) 2013年3月 「Particle based “-edly” Adverbs in Legal Discourse」『ことば・文化・コミュニケーション』第5号 pp.77-98 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)
- (34) 2014年3月 「General English Words in English Legal Discourse」『ことば・文化・コミュニケーション』第6号 pp.87-103 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)
- (35) 2015年3月 「Synonyms in Legal Discourse: A Corpus-based Approach to a New Legal English Dictionary」『ことば・文化・コミュニケーション』第7号 pp.37-63 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)
- (36) 2016年3月 「Light Verb Constructions in Legal Discourse」『ことば・文化・コミュニケーション』第8号 pp.31-66 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)
- (37) 2017年3月 「Multi-Word Sequences in Legal Discourse」『ことば・文化・コミュニケーション』第9号 pp.113-147 立教大学異文化コミュニケーション学部(単著)
- (38) 2017年3月 「ドイツと日本の中等教育で使用されている英語教科書の比較分析」『立教大学異文化コミュニケーション研究』第15号, pp.63-78 異文化コミュニケーション研究科(共著・監修)

●総説・解説記事

- (1) 1990年9月 「ヒアリング指導のポイントとテクニック」『三省堂中学校英語教育・別冊』pp.1-4 三省堂(単著)
- (2) 1991年9月 「〈聞く〉〈話す〉コミュニケーション指導の工夫」『三省堂英語教育』第9号 pp.5-7 三省堂(単著)
- (3) 1995年3月 「語彙と題材の奇妙な関係」『三省堂英語教育』第29号 pp.8-10 三省堂(単著)
- (4) 1997年7月 「数字(基数)の導入」『三省堂英語教育』第35号 p.5 三省堂(単著)
- (5) 1997年9月 「基本語彙を使いこなすために」『現代英語教育』9月号 pp.6-8 研究社(単著)
- (6) 2011年12月 「特色ある大学英語教育プログラム立教大学の英語副専攻の事例」『JACET

- 通信』第182号 pp.3-5 大学英語教育学会(単著)
- (7) 2017年3月 『『英語R』:立教大学の新たな挑戦』『大学教育研究フォーラム』第22号 pp.63-68 立教大学(単著)
- (8) 2019年3月 「全カリ英語を振り返って」『大学教育研究フォーラム』第24号 pp.90-93 立教大学(単著)

●研究発表

- (1) 1983年10月 「アメリカの広告と文化——英語学習へのヒント——」大学英語教育学会第22回全国大会(単独)
- (2) 1984年10月 「テレビ討論におけるアメリカ政治家のスピーチ」大学英語教育学会第23回全国大会(単独)
- (3) 1985年3月 「教室における英語会話指導法」千葉英語教育学会研究会(単独)
- (4) 1985年6月 「英語会話指導の理論と実践」中部地区英語教育学会第15回三重大会(単独)
- (5) 1985年6月 「コミュニケーション論から見た大統領の記者会見」現代英米文化学会第56回例会(単独)
- (6) 1985年10月 「発話能力の評価法に関する考察」大学英語教育学会第24回全国大会(単独)
- (7) 1986年7月 「インタビューにおける cohesion」昭和女子大学学内研究発表会(単独)
- (8) 1986年9月 「Discourse Analysisに基づく英作文指導法」現代英米文化学会第4回全国大会(単独)
- (9) 1987年6月 「コミュニケーション論から見たパブリックアナウンスメント」中部地区英語教育学会第17回和歌山大会(単独)
- (10) 1987年10月 「Public Announcementの情報構造」大学英語教育学会第26回全国大会(単独)
- (11) 1988年6月 「日本人英語の分析とそれが示唆するもの」日本コミュニケーション学会第18回年次大会(単独)
- (12) 1988年9月 「学習者の非発話行為から見た言語生成過程に関する一考察」大学英語教育学会第27回全国大会(単独)
- (13) 1989年6月 「Presidential Debateの構造」日本コミュニケーション学会第19回年次大会(単独)
- (14) 1989年9月 「Presidential Debateにおける協調の原理」現代英米文化学会第7回全国大会(単独)
- (15) 1990年6月 「テキスト文法から見た Presidential Debateにおける答えと反駁」日本コミュニケーション学会第20回年次大会(単独)
- (16) 1990年9月 「パラグラフ・ライティングを取り入れた結果」大学英語教育学会第29回全国大会(単独)
- (17) 1994年6月 「一般参加の Presidential Debateにおける質疑応答」日本コミュニケーション学会第24回年次大会(単独)
- (18) 1994年8月 「中学校の英語教科書における語彙の実態」第20回全国英語教育学会山口研究大会(単独)
- (19) 1994年9月 「ベーシックイングリッシュを応用した英作文指導——学習英語から実践英語へ——」大学英語教育学会第33回全国大会(単独)

- (20) 1994年12月 「一般参加の Presidential Debate におけるコンテキストと言語表現との関係」 大学英語教育学会関西支部談話分析研究グループ例会 (単独)
- (21) 1995年6月 「Presidential Debate における『主題』」 日本コミュニケーション学会第25回年次大会 (単独)
- (22) 1995年8月 「使用語彙から見た中学校の英語教科書におけるテキストの変化」 第21回全国英語教育学会浦安研究会大会 (単独)
- (23) 1995年9月 「基本語の品詞別使用形態から見た大学生が習得する英語の特徴と問題点」 大学英語教育学会第34回全国大会 (単独)
- (24) 1997年6月 「プレジデンシャル・ディベートにおける関係詞節の使われ方」 日本コミュニケーション学会第27回年次大会 (単独)
- (25) 1997年6月 「コミュニケーションとは何か — 談話分析の立場から —」 日本コミュニケーション学会第27回年次大会 (招待シンポジウム)
- (26) 1997年11月 「談話分析とは何か — その理論と応用 —」 英米文化学会第95回例会 (シンポジウム・筆頭)
- (27) 1997年12月 「統一シラバス・統一教材の功罪」 大学英語教育学会第3回FDセミナー (単独)
- (28) 1998年6月 「プレジデンシャル・ディベートにおける目的格の関係代名詞の使われ方」 日本コミュニケーション学会第28回年次大会 (単独)
- (29) 1998年8月 「ESP教材における非専門用語の扱い方」 第24回全国英語教育学会松山研究大会 (単独)
- (30) 1998年8月 「コンピュータはESP教材作成にどのような貢献ができるか」 英米文化学会第16回全国大会 (単独)
- (31) 1998年9月 「コンピュータ分析による法学部のためのESP教材の開発」 大学英語教育学会第37回全国大会 (単独)
- (32) 1999年2月 「アメリカ憲法判例読解における『JACET基本語4000』の有用性」 大学英語教育学会ESP研究会研究会 (単独)
- (33) 1999年6月 「Teaching Advanced Oral Communication Skills to College Students」 日本コミュニケーション学会第29回年次大会 (単独)
- (34) 1999年8月 「ELT Curriculum Innovation at a Japanese University: A Case Study of Rikkyo University」 1999年世界応用言語学会 (国際会議) (共同)
- (35) 1999年11月 「異文化コミュニケーションを教育に取り入れる創造的試み」 異文化コミュニケーション学会 (シータジャパン) 研究会 (招待講演) (単独)
- (36) 2000年11月 「シンポジウム: M. A. K. ハリデイの機能文法の理論と応用」 英米文化学会第104回例会 (シンポジウム) (筆頭)
- (37) 2000年11月 「ハイライト効果を使ったビデオ教材によるLL教室でのスピード・リーディングとリスニングの授業」 大学英語教育学会第39回全国大会 (共同)
- (38) 2001年8月 「The development of an ESP reference for US constitutional cases: an approach based on applied linguistics and corpus linguistics」 第13回特別の目的のための言語に関するヨーロッパシンポジウム (国際会議) (共同・筆頭)
- (39) 2005年9月 「コーパス言語学から見た判例における話法」 第3回英語コーパス学会関

- 東支部研究談話会(招待講演)(単独)
- (40) 2006年10月 「大学におけるカリキュラム改革：その現状と未来」デイリー・ヨミウリ／マグロウヒル・エデュケーション共催「英語教育セミナー」(招待講演)(単独)
- (41) 2007年6月 「大学英語カリキュラムの現状と未来：異なる教育組織からの展望」大学英語教育学会第2回関東支部大会(招待シンポジウム)
- (42) 2009年5月 「立教大学英語副専攻カリキュラム：北アリゾナ大学で考えたことを含めて」大学英語教育学会月例研究会(招待講演)(単独)
- (43) 2009年11月 「NHK High School English 1 from the perspective of TEFL in Japan」岡山大学外国語教育センター公開講演会(招待講演)(単独)
- (44) 2010年6月 「コーパス言語学が明らかにするアメリカ司法英語の歴史の変遷」第79回日本時事英語学会関東地区研究例会(招待講演)(単独)
- (45) 2012年9月 「A comparison of English legal terms: the OED's "law" markings and the usage in the lawyers' discourse」大学英語教育学会第51回全国大会(共同・筆頭)(国際会議)
- (46) 2013年10月 「司法英語における類義語をどう活用発信型辞書に記述すべきか」英語コーパス学会第39回大会(共同・筆頭)
- (47) 2014年8月 「A Corpus-based Legal English Dictionary for Non-native English Speaking Law Professionals」International Society for Linguistics of English 3rd International Conference(共同・筆頭)(国際会議)
- (48) 2015年5月 「A Corpus-based Production-oriented Legal English Dictionary for Non-native English Speaking Law Students: To Enable Competition on an Equal Footing」36th ICAME International Conference(共同・筆頭)(国際会議)
- (49) 2015年12月 「日本人のための活用発信型の司法英語辞典」電子情報通信学会：思考と言語研究会(招待講演)(共同・筆頭)
- (50) 2016年1月 「ドイツに見るEUの外国語教育：フライブルク大学滞在で垣間見たこと」立教大学英語教育研究所(招待講演)(単独)
- (51) 2018年11月 「英米の司法英語コーパスに基づく活用発信型辞書の編集」第1回JAAL in JACET(単独)
- (52) 2019年2月 「Teaching English as a Foreign Language in Japan: Coping with the Global Challenges」Sampoerna University in Jakarta(招待講演)(単独)

●公的研究助成金獲得実績

- (1) 1997年4月-2000年3月 科学研究費萌芽的研究(課題番号09878047)「コンピュータ分析によるESP教材、教授法の開発」研究代表者
- (2) 1998年4月-1999年3月 立教大学研究奨励助成金「眼球運動に基づく日本人学習者のリーディング時における英文読解のプロセスの研究」共同研究
- (3) 2000年4月-2004年3月 科学研究費基盤研究B(課題番号12480056)「コーパス言語学と英語教育学に基づくアメリカ憲法判例研究のためのESP辞書の開発」研究代表者

- (4) 2003年4月-2006年3月 科学研究費萌芽研究(課題番号15652025)「コーパス言語学に基づくイギリスの上院判例における話法の歴史的研究」研究代表者
- (5) 2008年4月-2011年3月 科学研究費基盤研究C(課題番号20520553)「司法英語教育のためのコーパスを用いたアメリカ、イギリス判例の共時的、通時的的研究」研究代表者
- (6) 2011年4月-2016年3月 科学研究費基盤研究B(課題番号23320119)「コーパス言語学に基づく司法英語の活用発信型辞書の開発」研究代表者
- (7) 2016年4月-2021年3月 科学研究費基盤研究B(課題番号16H03458)「コーパスに基づく日本人のための活用発信型司法英語辞書の編集」研究代表者

●これまでに海外から招聘し、公開講演会等を開催した著名な研究者

(開催年月日、招聘した講演者、演題)

- (1) 2009年12月12日 Prof. Douglas Biber (北アリゾナ大学教授)
講演会「コーパス言語学とその英語教育への応用」
- (2) 2010年12月11日、13日~16日 Prof. William Grabe (北アリゾナ大学)
公開講演会「リーディング指導における迷信(myth)」第1講「リーディング・リサーチにおける7つの循環的ステージとその応用」、第2講「文章読解のための新たな試み」、第3講「リーディングとライティングの関係」、第4講「リーディングとライティングのすすめ」
- (3) 2010年12月11日、13日~16日 Prof. Frederica Stoller (北アリゾナ大学)
公開講演会「リーディング指導における迷信(myth)」、第1講「プロジェクトを使った目的別外国語学習のすすめ」、第2講「効果が実証された新たな語彙教授法」、第3講「ESPにおけるリーディングとライティング」、第4講「統合的学習技能とコンテンツ・ベースな教授法」
- (4) 2012年10月8日~11日 Dr. Geoffrey Leech (ランカスター大学)
公開講演会 第1講「近年の英文法研究における成果」、第2講「British National Corpusの成功と課題」、第3講「近年における英語の動詞句の変化」、第4講「英語という言語の過去、現在、未来」
- (5) 2012年11月26日~29日 Prof. Susan Hunston (バーミンガム大学)
公開講演会 第1講「バンク・オブ・イングリッシュとコウビルド・プロジェクト」、第2講「正しく話すために：英語のフレイジオロジー」、第3講「動詞から見たパターン文法」、第4講「正しく教えるために：コーパス言語学と英語教育」
- (6) 2013年6月3日~6日 Prof. Michael Hoey (リバプール大学副学長)
公開講演会 第1講「レキシカル・プライミング」、第2講「語の意味、語彙間の意味的關係、コーパス言語学」、第3講「パラグラフ、文章構造、語彙選択」、第4講「文法的結束性、意味的結束性、メンタルレキシコン」
- (7) 2014年6月2日~6日 Dr. David Newby (元グラーツ大学教授)
公開講演会 第1講「欧州言語共通参照枠(CEFR)とは何か」、第2講「語学教育実習生のためのヨーロッパ・ポートフォリオ(EPOSTL)とは何か」、第3講「新しい文法の教え方：認知文法+コミュニカティブ・アプローチ」、第4講「新しい文法の教え方：実践的

- ワークショップ]、第5講「社会の変化を反映した現代英語の特徴」
- (8) 2016年3月7日～11日 Dr. Susanne Gundermann (フライブルク大学)
公開講演会、ワークショップ 第1講「高等教育におけるEMI (English-medium instruction)の普及」、第2講「教員と学生から見たEMIの問題とは」、第3講「EMI実施のためのサポート：フライブルク大学の事例より」、第4講「EMIの教室における多様性と異文化コミュニケーション」(ワークショップ)、第5講「EMIのクラスにおける学生同士のやり取り」(ワークショップ)
- (9) 2016年5月16日～20日 Prof. Matthias Hutz (フライブルク教育大学)
公開講演会 第1講「ドイツの教育制度」、第2講「ドイツの外国語教育制度」、第3講「ドイツにおける教員養成」、第4講「教育大学における教員養成コース」、第5講「これからのドイツの教育制度」
- (10) 2016年9月24日、10月1日 Prof. Dr. Dr. Christian Mair (フライブルク大学)
公開講演会 第1講「多言語世界におけるグローバル英語：言語とグローバルイゼーション入門」、第2講「世界都市ロンドン、ニューヨーク」、第3講「トロントにおける移民と多言語主義について」、第4講「クレオール化：カリブの英語における言語と文化」、第5講「言語学の進歩：技術と人間的要因」
- (11) 2017年9月30日、10月7日 Prof. Dr. Brigitte Halford (フライブルク大学)
公開講演会 第1講「多様な言語との接触に彩られた英語の歴史：言語発達を中心とした」、第2講「言語接触の場における言語とアイデンティティ：話し手を中心とした」、第3講「多言語主義が個人に及ぼす効果：認知および態度から見た」、第4講「ヨーロッパにおける社会的多言語主義の諸形態：状況や政策から見た」
- (12) 2017年6月17日、6月24日 湯浅悦代准教授 (オハイオ州立大学)
公開講演会 第1講「大学教育における国際化、地域研究、外国語教育：アメリカ事情」、第2講「オハイオ州立大学における国際化、地域研究、外国語教育の試み」、第3講「Performed-culture approachの理論的背景と概要」、第4講“Performed-culture approach” (ワークショップ)
- (13) 2018年6月23日 野田真理教授 (オハイオ州立大学)
公開講演会 「パフォーマンスウォッチング活動」
- (14) 2018年11月24日 Prof. Randi Reppen (北アリゾナ大学)
公開講演会 「コーパス言語学の多面的有用性」

